

廣報

東京大学理学部

(題字は柴田雄次名誉教授)



目次

基礎科学と応用科学の 狭間で考えたこと	原口 紘 系… 2
故吉田耕造教授	浅田 敏… 4
〈学部消息〉	5 ~ 18



理学部附属臨海実験所

上

メインビルディングの正面で、建物のうらにですとすぐ油壺湾である。屋上からは富士山を中央に丹沢から天城の山までを一望にすることができる。一階、二階とも研究室が主で、別棟に水族室、宿舎などがある。

下

採集船臨海丸。わずか3トンあまりの小船ながらドレッジ採集など研究にも教育にも奮闘している。船上の3人は採集のベテラン達で実験所を訪れる研究者は皆世話になった覚えのある人達である。

基礎科学と応用科学の狭間で考えたこと

原 口 紘 丞 (化学)

この4月から理学部の一員として参加することになりました。昭和44年7月化学系大学院博士課程(指導教官:藤原鎮男教授)の中途から農学部農芸化学科助手に転出して以来ですから、約9年ぶり古巣で仕事をする機会を与えて頂いたこととなります。この間、上記の農芸化学科に約5年間、環境庁国立公害研究所に約4年間在籍し、うち2年間を米国フロリダ大学化学教室で過しました。理学部外の研究室、研究所を割合短期間のうちに3箇所、しかもどちらかという与应用分野の研究環境の中で研究を続けてきた意味では、多くの皆様と多少異なる体験をしたと思います。反面、これまで应用分野の研究環境に慣れた自分が、これから基礎研究の学問分野でどういふ研究の展開ができるか、また行なわねばならないかを考える時一沫の不安を覚えます。今回広報委員の田隅三生教授から、新年度教官として外部から転入した数少ない一人として、私の体験を自己紹介を含めて書くようにとのお勧めがありましたので、筆を取った次第であります。しかしながら、この間特筆するような業績や出来事があったわけでもありませんので大変憚られるのですが、9年間の研究および体験を御紹介することで責任を果たしたいと考えております。

昭和44年といえば、東大では1月に今でも記憶に生々して安田講堂事件があった年で、遂にはその年の入学試験までが中止され、大学の将来にかなり不安を感じた頃であります。私が農学部に移りました7月頃は、本郷キャンパスはかなり平静に戻りつつありましたが、橋一ツ隔てた農学部キャンパスでは地震研究所や応用微生物研究所で臨時職員問題の火の手が上り始めておりました。研究環境にはそれほど影響はありませんでしたが、農学部としては続く数年間この問題で大変だったようです。

国内事情としては、高度経済成長政策の実効が現われ始め、“エコノミックアニマル”の勇名をさせ、日本経済の世界市場への進出が喧伝されており

ました。経済発展の影響は、大学では学生数の増員、学科の新増設、それに伴う研究室の増設として反映され、大学も急速に拡充されておりました。その結果、私達世代はマスプロ教育の申し子として育ったわけです。化学科では昭和38年と割合早い時期に学生数が従来の25名から45名に増員されておりました。農芸化学科では昭和43年に50名から75名に増員され、それに伴ない研究室が従来の10講座から新設5講座を加えて15講座に増設されました。既にその頃オーバードクターの問題が起り始めていた頃ですから、私が研究職に就いたのは学科増設の恩恵にあずかったわけです。

農芸化学科で私が所属しましたのは、新設講座の「分析化学研究室」で、そこに着任されたのが現在は化学教室におられます不破敬一郎教授でありました。不破教授は10数年間の滞米生活から帰国された直後であり、新しい研究分野の展開と共に、また先生はいわゆる“アメリカボケ(自称)”状態だったので今ではお聞きすることのできないアメリカ事情を拜聴することが出来、新鮮かつ強烈な印象でありました。研究テーマとしては、“微量金属と生物、並びに新分析法の開発”を挙げておられました。それから5年、研究室も整い、私自身の研究も軌道に乗りかけた時期だったのでありますが、昭和49年3月環境庁の付属研究所として筑波研究学園都市に国立公害研究所が新設され、不破教授が計測技術部長を兼任された関係もありまして、私も発足早々の時期に参加したのであります。今考えてみますと、新設講座、新設研究所を渡り歩くことはどれだけの研究ができるか不安も大きかったのですが、新しい研究環境を創造し、かつ異なる分野の人々に会える喜びはそれに替え難いものでした。

当時既に水俣病、イタイイタイ病などの公害病が多数発生しており、それらの公害問題に対処するために政府が環境庁を新設したのが昭和46年、そして環境問題の総合研究所として昭和49年国立公害研究

所が設立されたのであります。環境問題が昭和30年代以降の急速な経済発展の矛盾として発生したことは疑い余地がありません。現在では非常に厳しい環境基準の設定と浄化処理設備の設置義務のため、産業廃棄物による公害発生の可能性はかなり少なくなりつつあります。そして今後は、自動車の排気ガスや生活排水など住民生活と結びついた環境問題がより重要なものとなると思われれます。すなわち、環境問題では公害に対処するという考え方よりも、環境科学としての地道な研究が、大げさに言えば“地球を守る”という立場から必要と考えられます。現在文部省特別研究として進められている「環境科学」特別研究は、このような観点から時宜を得た企画と考えられます。

筑波研究学園都市には、筑波大学を含めて40余数の研究機関が移転・新設により建設されております。昭和49年当時は未だ建設間もない時期で道路もあまり整備されておらず、ドロコ道を長靴で歩かねばならなかった懐かしい時代でした。以来4年、道路も完備し、建物もほとんど完成間近かで、来年の通産省、農林省関係研究機関の移転によって一応完成の運びとなる予定です。これからは住宅および生活環境など周辺設備の整備が重点的に行なわれ、新しい近代都市、そして日本で初めての研究都市が誕生しようとしています。

フロリダ大学には昭和50~52年の2年間滞在しました。行先は化学教室の Winefordner 教授の研究室で、教授は「原子ケイ光分析法」という微量分析法の創始者として知られている方です。教授の学問、研究に対する情熱と素晴らしい研究環境の中で、現在種々の分析法の中で多くの元素について最高感度を得ることのできる“色素レーザー励起原子ケイ光分析”，またフレームなどの高温ガス燃焼体の局所温度直接測定法の開発など幾つかのかなり重要な基礎的ないしは開発的研究を行なうことができました。それまで応用分野の研究環境の中に身を置いて、自分の研究方向を見い出すのにあくせくしていた時期でしたが、フロリダ大学の2年間は不思議と安らぎのある充実した研究生活を過ごすことができました。

これまで研究以外のことを主に書いてきましたが、大学院時代からでも10数年にしかならない私の研究

経歴の中でも、学問から社会の動きを見ても、逆に時代の流れから自分の研究を見ても、不思議と関連があるのに感慨を覚えるからであります。これは私の専攻している分析化学という学問自体の性格によるものなのかもしれませんが、一方指導を受けた先生方の先見の明によることは勿論です。大学院時代に学んだ核磁気共鳴分光法は藤原教授がその普及に大変貢献されたものであります。核磁気共鳴法がなかったならば戦後の高度成長の担い手の一つである石油化学工業における化合物分析は相当に困難な問題だったと思われれます。不破教授が帰国後普及に努力された原子吸光分析法は、現在環境分析ばかりでなくあらゆる分野の超微量分析法として不可欠なものとなっています。そして現在、私達は不破教授を中心に“多元素（多成分）同時超微量分析法の開発”を大きなテーマとして研究を進めております。フロリダ大学で学んだ原子ケイ光分析法や高周波プラズマ発光分析法、そしてGC-MSなどの測定法が基礎となります。この方法の概念は、生物や環境試料中の微量元素の役割や評価を考える時、必須元素であれ有害元素であれ、単一元素のデータだけでは十分な議論ができないことに触発されたもので、応用分野のニーズに由来するものです。しかし、その要請に応えるには基礎科学としての分析化学や各種物理的測定手段に関する技術や知識を生かさねばなりません。これらは小さな問題かもしれませんが、このような基礎科学と応用科学または異種学問分野のつながり、このことを今様にいうならば学際領域の研究ということになります。この学際研究が既に行なわれている以上に今後重要となると思います。それも人間との関連で考えられねばならないでしょう。オイルショックで地球上の資源やエネルギーは有限であり、環境問題で地球上の空間は有限であることを私達は学びました。人口増加に伴う食糧問題が近い将来の大問題となることも警告されています。物質観のみによる科学がこれらの問題すべてを解決できるとは思われませんが、しかし解決法の糸口は科学に頼るしかなさそうです。基礎科学を推進する場としての理学部でも、学問の発展に貢献しつつ、上記のような地球上の問題に如何に対処するかを考えることは、個人の関与できる分野は小さ

くとも重要な使命のような気がしておりますが、この考えは応用に親しみ過ぎたせいでしょうか。

理学部には学生として数年間いただけですので面識も少ないのですが、諸先生方はじめ皆様の御指導

を得ながら、将来の大学教育や研究をこれまでの経験を生かして考えていきたいと考えています。今後皆様の御教示を切に願っております。

故 吉 田 耕 造 教 授

浅 田 敏 (地球物理)

吉田さんは私の同級生です。つまり地球物理を昭和19年9月(戦争のため在学年数は2年半でした)と一緒に卒業したのです。ですから30年以上もお互いに顔をつきあわせていたこととなります。

ところが、私にとって吉田さんがなくなるすぐ前のころの顔も、共に教室で諸先生の講義をきいていたころの顔もまったく同じ、つまり年々かわっていないように思えるのです。20才の青年と50代の人顔がおなじ筈ありませんが不思議なことに本当に同じに見えるのです。

これはきっと吉田さんの性質と云うべきか気質と云うべきものが、その間年々かわっていないからにちがいありません。吉田さんは本当に純粋で善良な方でした。勿論これは単なるお人好しと云うわけではありません。学術上では重要な業績をあげられ、又色々な委員会や国際的な組織で重要な役をはたして居られました。

吉田さんがなくなったときに門下の方々は吉田さんの学術上の論文集を出されました。

ここではその論文集の序文をかりて、吉田さんの履歴を記しておきましょう。

『東京大学教授吉田耕造博士は、去る1月28日直腸癌のため、東京大学附属病院で逝去され、告別式は1月30日文京区白山の寂円寺で行われました。

先生は大正11年1月17日大阪でお生れになり、昭和14年に大阪府立北野中学校を、17年第一高等学校理科を、19年9月に東京帝国大学理学部地球物理学科をご卒業、21年東京大学理学部助手、28年理学博士、その後29年助教授、39年地球物理第一講座教授に昇任され、終始東京大学にあって海洋物理学の研究と教育にはげんでこられました。また、この間27

年5月から29年11月、36年2月から37年2月の2回にわたってスクリップス海洋研究所で研究に従事されております。』

ここで吉田さんの学術上の業績について紹介しておきたいと思います。前記の論文集によれば1947年から1978年までの間に68編の論文と、8冊の単行本を出して居られます。

吉田さんの学問上の功績についてもっと具体的に書きたいと思いますが、それにはやはり吉田さんの学問をよくしている方によってまとめられた『功績調書』の一部を引用させていただきたいと思います。

『故吉田教授は、「生物生産に極めて重要な関連を有する海洋における湧昇現象の力学的解明の基礎を築き、その後のこの分野の研究発展において国際的に指導的役割を果たしてきた。海洋大循環の研究に関しては、亜熱帯反流の予言とその検証、その他黒潮に関する研究の推進」を行なうなど、我国における近代的海洋研究の中心的存在であった。これらの一連の業績に対しては日本海洋学会より昭和43年度日本海洋学会賞が贈られている。故吉田教授の業績ならびに能力が国際的にも高く評価されていることは、国際海洋科学協会(IAPSO)の副会長、海洋研究特別委員会(SCOR)の委員、およびその他専門委員会(CUE)の委員長等として研究推進協議にあづかる重要な役を果たしていることにもあらわれている。』

吉田さんが国際的にもよく知られた学者であったことはこれでよくわかります。功績調書とは勲章をいただくためのものです。吉田さんは正四位と云うくらいと勲三等旭日中綬章と云う勲章をいただかれ

ました。これに対し吉田さんがどのような感想をもたれたかは私には知るよしもありますが、すなおに喜んで居られるのではないのでしょうか。

吉田さんはちょっと見ると気むづかしそうな感じのする人でした。しかし本当はそんなに気むづかしかったとは思えません。ただデリケートな方でした。吉田さんの本質は善良と云うことばが一番よくあらわしているのではないかと思います。

吉田さんは人を利用しようとしたり、あるいは人

をふみだいにして何かしようとしたりすることは絶対にありませんでした。又自分の意志をむりおしに人におしついたり、人を自分の思うようにさせようとしたり、そんなことは吉田さんともっとも縁の遠いことだと思います。

30年以上のつきあいと云っても顔をあわせるのは時々でしたので、今でも又、いつか顔をあわせるのではないかと思えてなりません。

<学部消息>

教授会メモ

4月19日(水)午後1時30分より定例教授会

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 研究生の入学について

4. 研究生の研究期間延長について
5. 昭和53年度受託研究員について
6. 人事委員会報告
7. 会計委員会報告
8. 教務委員会報告
9. 寄付受入れについて
10. その他

人事異動

〔講師以上〕

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
化学	講師	原田 一 誠	53. 3. 1	教育職(→)2等級(東京大学助教授理学部)に昇任させる	
物理	助手	中尾 憲 司	53. 3. 1	教育職(→)3等級(東京大学講師理学部)に昇任させる	
植物	助手	笠原 道 弘	53. 3. 1	教育職(→)3等級(東京大学講師理学部)に昇任させる	医学部から

〔助手〕

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	助手	須田 英 博	53. 3. 1	宇宙線研究所助教授昇任	
情報	助手	大岩 元	53. 4. 1	豊橋技術科学大学講師昇任	
情報	助手	疋田 輝 雄	53. 3. 31	退職	都立大学講師就任
数学	助手	水谷 明	53. 3. 31	退職	学習院大学講師就任
人類	助手	今村 啓 爾	53. 4. 1	文学部助手に配置換	
地物	助手	古屋 逸 夫	53. 4. 1	気象庁気象大学校講師転任	
生化	助手	村田 紀 夫	53. 4. 1	教養学部助教授昇任	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地質		角和善隆	53. 4. 1	助手に採用	
物理		坪野公夫	53. 4. 1	助手に採用	
地物		山田敏彦	53. 4. 1	助手に採用	
地物		松浦充宏	53. 4. 1	助手に採用	
化学		佐藤春雄	53. 4. 1	助手に採用	
数学		加藤信一	53. 4. 1	助手に採用	
数学		坪井俊	53. 4. 1	助手に採用	
数学		矢野公一	53. 4. 1	助手に採用	
数学		楠岡成雄	53. 4. 1	助手に採用	
数学		鈴木貴	53. 4. 1	助手に採用	
数学		丸山直昌	53. 4. 1	助手に採用	
物理	助手	布施元正	53. 3. 31	退職	民間会社就職
物理	助手	久保謙一	53. 4. 15	退職	東京都立大学助教 授就任
植物	助手	及川武久	53. 4. 16	筑波大学助教授昇任	
地物	助手	水谷仁	53. 4. 16	名古屋大学助教授昇任	
生化	助手	池原健二	53. 5. 1	奈良女子大学助教授昇任	
物理		青木秀夫	53. 5. 1	助手に採用	
情報		木村高久	53. 5. 1	助手に採用	

〔講師以上〕

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	教授	木原太郎	53. 4. 1	停年退職	
物理	助教授	池上明	53. 3. 31	退職	理化学研究所就職
数学	助教授	落合卓四郎	53. 4. 1	東京大学助教授理学部に配置換する	大阪大学から
化学	助教授	原口紘丞	53. 4. 1	文部教官教育職(→2等級(東京大学 助教授理学部)に転任させる	公害研究所から

〔一般職員〕

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	事務官	飛塚淳子	53. 3. 1	採用	
物理	事務官	森島景子	53. 3. 16	採用	
情報	技官	塚本太郎	53. 3. 1	採用	
化学	技能員	梅津恒	53. 3. 1	採用	
数学	技官	遠藤明子	53. 3. 31	退職	
化学	技官	松田正太郎	53. 4. 1	退職	
地質	事務官	市原正	53. 4. 1	退職	
事務部	事務官	川口鴻暁	53. 4. 1	農学部人事掛長昇任	
事務部	事務官	渡部健一	53. 4. 1	人事掛に配置換	社会科学研究所か ら
数学	技官	東海林まゆみ	53. 4. 1	採用	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	技官	立花佳子	53. 4. 30	退職	
物理	技官	大日方一男	53. 5. 1	大型計算機センターへ配置換	

外国人客員研究員報告

所属	国籍	氏名	現職	研究期間
地物	アメリカ	Harold Solomon		53. 4. 1 ~ 53. 8. 31

2月海外渡航者

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
物理	助手	今里純	カナダ	2. 1 ~ 54. 1. 31	中間子による原子核及び物性物理の研究のため
地理	助教授	小堀巖	インド	2. 10 ~ 2. 22	国際半乾燥熱帯地域作物研究所理事会出席及び地理学に関する研究連絡のため
化学	教授	向山光昭	大韓民国	2. 10 ~ 2. 12	有機合成化学に関するシンポジウム出席
物理	教授	山崎敏光	カナダ	2. 15 ~ 3. 1	ミュオン実験のため
化学	講師	脇田宏	アメリカ合衆国	2. 20 ~ 3. 15	地震予知の研究のため
素物施	助手	武田広	ドイツ連邦共和国	2. 22 ~ 54. 2. 21	電子・陽電子衝突実験の研究のため (DESY)
化学	教授	朽津耕三	アメリカ合衆国	2. 21 ~ 3. 26	「気相の分子構造」に関する第7回オースチンシンポジウムに出席並びに物理化学に関する研究連絡のため

3月海外渡航者

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
物理	教授	小柴昌俊	ドイツ連邦共和国 イタリア スイス フランス	3. 2 ~ 3. 14	高エネルギー物理学に関する研究連絡並びに関連研究施設視察のため
人類	助教授	尾本恵市	フィリピン共和国	3. 22 ~ 4. 8	海外学術調査 (ネグリティ族の集団遺伝学的調査) の予備折衝のため
地球物理	教授	竹内均	アメリカ合衆国	3. 25 ~ 4. 2	ハワイ諸島における地質学研究のため
地質	助教授	島崎英彦	アメリカ合衆国	3. 27 ~ 5. 1	コルディエラン・セクションの年会におけるスカルンに関するシンポジウムに出席及び研究連絡のため
動物	教授	高橋景一	オーストラリア	3. 11 ~ 3. 28	棘皮動物に関する国際会議に出席のため

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
地球物理	助教授	斉藤正徳	アメリカ合衆国	3.26～4.1	合成地震記象に関する会議に出席のため
生化	教授	酒井彦一	アメリカ合衆国	3.17～4.4	分子細胞生物学に関するICN-UCLA対論集會に出席し、生物化学に関する研究連絡のため
地物研	助手	金田栄祐	カナダ	3.8～4.18	科学衛星EXOS-A観測実験データ取得のため
物理	助教授	釜江常好	アメリカ合衆国	3.7～3.16	核子-核子相互作用に関するシンポジウム出席、講演のため
地質	助教授	歌田実	アメリカ合衆国、フランス、スペイン、ドイツ連邦共和国、チェコスロバキア、イタリア、ブルガリア、トルコ、イラン	3.30～54.3.29	新期造山帯にあらわれる変質作用の比較研究のため
植物	教授	飯野徹雄	イタリア	3.27～4.2	遺伝子工学に関する国際シンポジウム出席のため
素物施	助手	戸塚洋二	ドイツ連邦共和国	3.15～54.3.14	電子・陽電子衝突実験のため
地質	教授	久城育夫	アメリカ合衆国	3.27～8.31	岩石学の研究および研究指導のため
鉱物	助教授	武田弘	アメリカ合衆国	3.12～3.22	第9回月・惑星科学會議に出席し、NASAの研究者と最近の宇宙科学についての研究連絡のため

4月海外渡航者

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
物理	助手	北原和夫	ドイツ連邦共和国	4.12～6.21	固体物理学に関する研究のため
動物	助手	竹内重夫	連合王国	4.12～54.4.11	上皮細胞の協調的移動および形態形成運動の機構の解析のため
数学	助教授	塩田徹治	ドイツ連邦共和国	4.1～9.30	代数幾何学の研究のため
化学	教授	大木道則	大韓民国	4.19～4.29	大韓化学会出席および物理有機化学に関する研究連絡のため
同	同	同	スイス	4.28～5.7	EUCHEM立体化学會議出席および第26回IUPACコンgresプロシーディング編集打合せのため

理学部卒業生

昭和53年2月17日（1名）

【生物学科（人類学）】 1名

鎌田 修

昭和53年3月28日

【数 学 科】 42名

数沢 栄, 鈴木 和夫, 石井 清, 大西 貞憲, 大山 義廣, 久保 昌之, 清水 保弘, 菅野 孝史
鈴木 敦, 坪井 堅二, 永田 真也, 野海 正俊, 肥山 高一, 村瀬 元彦, 植田 和孝, 渡邊 幸夫
阿部 吉弘, 岩淵 真人, 上 正明, 打越 敬祐, 緒方 寿雄, 加藤 裕一, 金田 裕之, 兼田 正治
木村 弘信, 岸野 洋久, 小池 和彦, 小門 裕孝, 小室 睦, 齊藤 盛彦, 田口 功, 田中 洋平
高石 繁生, 高橋 洋一, 谷 俊之, 椿 潤子, 中島 匠一, 古川 吉弘, 梶田 幹也, 三好 透
村山 令二, 木村 英一,

【物 理 学 科】 74名

能見 育孝, 荒井 則一, 小野 治人, 神前 純一, 北戸 春雄, 小磯 晴代, 小机わかえ, 柴垣 顕郎
須藤 千秋, 須摩 春樹, 田中 健滋, 高松 洋子, 豊島 近, 野澤 靖, 藤木 良, 牧野ゆり子
増原 直人, 室 健次郎, 矢部 輝, 山田 忠, 相原 博昭, 伊藤 敦, 石内 秀美, 石川 千秋
梅本 康成, 上井 邦彦, 江間 泰示, 長田 敏正, 甲斐 直行, 川合 光, 川越 秀二, 川田 能成
菅野 良三, 北川 博之, 久保 敏幸, 源間 信弘, 小林 博, 小森 文夫, 後藤 典夫, 齋藤 実
清水 貴史, 杉本 讓, 鈴木 良夫, 田子 一農, 高瀬 雄一, 高橋真一郎, 滝川 仁, 滝尻 珍重
竹下 光明, 竹森 直, 谷口 浩, 辻 俊二, 鳥海 明, 中泉 明彦, 永塚伸太郎, 西崎 孝道
野中 洋, 長谷川哲夫, 長谷川裕夫, 長谷川泰正, 樋 浩一, 秦 信宏, 阪東 寛, 日笠 健一
藤田 博, 前田 章, 松山 晶彦, 宮崎 武, 室井 雅博, 八木 康之, 山内 正則, 山下 治雄
吉田 宜章, 綿村 哲

【天 文 学 科】 3名

渡邊 正明, 相馬 充, 常田 佐久

【地 球 物 理 学 科】 18名

佐藤 博樹, 中村 光一, 宮崎登美久, 青木 繁明, 岩崎 伸一, 宇平 幸一, 大西 正純, 金子 郁雄
岸本登志雄, 北村 佳照, 額額 一起, 滝上 豊, 当舍 利行, 永田 雅, 西川 敦, 平田 直
藤田 茂, 輪座 利彦

【化 学 科】 44名

浅見 正弘, 東 和文, 井上 薫, 井山 弘幸, 飯嵐 誠, 冢近 泰, 板垣 秀幸, 上榎 勇
歌川 晶子, 江川千佳司, 小野 寛, 大島 茂, 岡本 敏嗣, 金井 豊, 川幡 穂高, 木村 祐二
金藤 栄孝, 佐々木高義, 佐野 有司, 齋藤 茂樹, 阪本 泰男, 山東 勤弥, 斯波久二雄, 柴田 智之
島田 広道, 鈴木 啓介, 千葉 光一, 土屋 弘雄, 永田 稔, 中塚 隆, 中山 陽一, 西村小百合
根岸 良夫, 橋本 和仁, 藤倉 良, 藤本 克巳, 星子 知範, 牧島 英男, 松井 正宏, 松尾 基之
丸山 和夫, 森 裕平, 矢作 哲朗, 山崎 裕文

【生 物 化 学 科】 22名

瓜生原信輔, 小俣 達男, 小坂 郁代, 中村 讓治, 天野 芳和, 石野 史敏, 植村 浩, 榎森 康文
菊池 尚志, 熊谷 博道, 児玉 隆治, 小林 久人, 小安 重夫, 佐藤 元信, 齋藤 公子, 嶋田 一夫
田中 敏, 内藤 哲, 野元 裕, 橋本 晴男, 古川 伸一, 柳沼 克幸

【生物学科（動物学）】 9名

岡 良隆，上村 慎治，串山 紀夫，小路 武彦，中土 義章，野中 浩一，引地 尚子，松下 晋
最上 善広

【生物学科（植物学）】 7名

星野 一昭，岡本 進，佐藤 良，津田 雅孝，中嶋 茂雄，細川 周平，峰雪 芳宣

【生物学科（人類学）】 4名

諏訪 元，井辻 朱美，小泉 清隆，高橋 秀雄

【地学科（地質学・鉱物学）】 16名

新井 英憲，巷岡 敏紀，畔上 耕児，猪原 芳樹，植杉 一夫，小澤 一仁，太田 保，亀井 政之
川野美砂子，清水 和彦，千木良雅弘，中嶋 悟，中村恵里子，長谷川修一，山口 尚志，田吹 亮一

【地学科（地理学）】 8名

木村 和生，菊地原 新，岡山 潤，蟹谷 和弘，北島 晴美，諏訪 春洋，多田 卓史，高橋 雄一

大学院修士課程修了者

昭和53年3月29日（198名）

【数 学】 22名

青木 貴史，赤川 誠一，石原公一郎，大里 博志，太田 慎一，片岡 俊孝，加藤 信一，楠岡 成雄
合田 俊文，小島 定吉，佐藤 康夫，下村 俊，菅原 一秀，鈴木 貴，田島 慎一，谷川 政雄
坪井 俊，裕 文夫，丸山 直昌，矢野 公一，山崎 正之，雪田 修一

【物 理 学】 48名

秋廣 誠，荒木 敬介，今田 正俊，岩崎 博行，岩橋 理彦，岩間 芳生，宇佐川利幸，潮田 浩作
牛越 淳雄，内村 直之，大川 正典，大橋 隆哉，押山 淳，川崎 洋人，窪田 有一，黒沢 隆
巨瀬 勝美，小中 信典，駒宮 幸男，佐々田博之，佐藤 朝男，沢田 証，篠田俊二郎，柴田 利明
新川 孝男，鈴木 敏一，鈴木 弘成，住吉 孝行，棚橋 俊之，椿 光太郎，寺西 信一，中島 一久
長野 正道，那須田明生，新居田正史，西野 仁，西村 弘志，馬場 基芳，平木 敬，広海 健
藤森 淳，宮下 精二，森 祥次郎，屋代 真，吉沢 英樹，林 青司，涌井 貞美，窪田 道典

【天 文 学】 1名

浜部 勝

【地 球 物 理 学】 19名

井口 俊夫，伊藤 公子，岩崎 貴哉，歌田 久司，江口 孝雄，大久保修平，川辺 正樹，小玉 一人
里村 雄彦，柴崎 和夫，田中 基彦，中田 正夫，浜谷 望，藤井 京子，本田 勝彦，町田 忍
村田 節夫，吉川 澄夫，吉田 次郎

【化 学】 37名

荒井 真一, 五十嵐幸信, 今岡 正徳, 岩井 正博, 牛木 秀治, 浦部 宏, 大谷 弘之, 大野 裕康
大場 茂, 片桐 元, 金岡 靖, 久保田裕康, 河野 一通, 小杉 信博, 坂口 喜生, 佐々木元
正田晋一郎, 菅 和彦, 杉田 教文, 鈴木 邦夫, 大門 寛, 高橋 純一, 高橋 由和, 高林ふじ子
田辺 潔, 筒井 幹雄, 角田 欣一, 長瀬 公一, 並河 美鈴, 野村 昌治, 花房 文人, 馬場 祐治
板東 高志, 藤森 光雄, 校條 浩, 渡辺 匡子

【生 物 化 学】 14名

青木 智, 板谷 光泰, 老田 哲也, 桑原 朋彦, 越尾 修, 桜井 通陽, 佐藤 直樹, 網脇 祥子
西田 栄介, 服部 成介, 久永 真市, 藤本 完治, 前川 昌平, 松村 寿子

【動 物 学】 9名

赤坂 甲治, 川上 速人, 河村 孝介, 小林 裕太, 真行寺千佳子, 高橋純夫, 深町 博史, 前田龍一郎
増井 徹

【植 物 学】 7名

池内 昌彦, 植村 尚子, 可知 直毅, 門田 裕一, 沓掛 和弘, 福田 裕史, 邑田 仁

【人 類 学】 1名

長谷川真理子

【地 質 学】 8名

阿部 勝巳, 安部 忠彦, 内田 隆, 角和 善隆, 加瀬 友喜, 杉山 雄一, 多田 隆治, ベルナルド・
バルセローナ

【鉱 物 学】 4名

海津 重倫, 鈴木 正俊, 田中 充, 辻村 凡平

【地 理 学】 6名

荒井 良雄, 熊木 洋太, 佐藤 裕治, 中俣 均, 三浦 真, 吉田 隆

【相 関 理 化 学】 18名

井上 栄治, 上田 英二, 大塚 昭夫, 岸 浩一郎, 小松 健次, 高島浩一郎, 高橋 勝雄, 田中 利典
田辺 久, 田村 真一, 中馬 寛, 西岡 公彦, 野口 茂, 橋 真理, 楢谷 道子, 矢島 裕介
山岸 明彦, 渡辺 肇

【科学史・科学基礎論】 4名

久保 明, 佐野 正博, 山岡 豊, 吉岡 斉

第 1 種博士課程修了者

昭和53年3月29日 (72名)

専門課程	氏 名	論 文 題 目
数 学	水野賢三	有限シュバリー群 $En(q)$ (q : 偶数) のある種の特徴づけに関する研究
同	栗原章	q -進保型函数によって一意化された或る種の多様体について
物 理 学	青木秀夫	強磁場中 2 次元不規則電子系の電子構造
同	岩佐泉	超音波による固体ヘリウム 4 の研究
同	上野静恵	一次構造を陽にとりいれた DNA 二次構造の熱変性過程の熱統計力学的解析
同	内海研一	BCC 固体ヘリウム 3 における核スピン秩序
同	梅村鎮男	メスバウアー効果による Fe_3O_4 低温相中の Fe^{2+} イオンの研究
同	加藤隆夫	透過法による銅の電子スピン共鳴の研究
同	金田康正	数式処理における新アルゴリズムの研究
同	木村高久	音響データベースの生成および正当化を目的とする音響分離システムの構成法 — ピアノ伴奏からの歌声分離を実例として —
同	小穴孝夫	ショウジョウバエ飛翔突然変異の遺伝学および電子顕微鏡による解析
同	小泉大一	非晶質構造の転位模型
同	小西憲俊	時間分解分光法による分子の緩和定数の決定
同	佐久間隆	中性子準弾性散乱による溶液の構造と原子拡散の研究
同	佐藤幸三	グラフォイルに吸着した 3He 単分子膜の核スピン緩和時間の測定
同	篠原勝	円管内の粘性流体中を軸に平行に運動する微小粒子に働く力
同	末元徹	凝縮相稀ガスにおける励起電子状態の分光学的研究
同	菅本晶夫	非可換ゲージ理論における赤外発散と低エネルギー定理についての研究
同	田中正俊	VI 族遷移金属カルコゲナイドの応力及び磁気光学的研究
同	寺島元章	索表計算法, 原理とポータブルなコンパイラー
同	西尾泉	鎖状高分子溶液からの準弾性光散乱
同	西村明俊	フェルミオン・ボソン系の古典解
同	樋口行平	グラファイト・インターカレーション化合物の電子物性
同	藤井秀荘	鉄中の μ^+ の量子拡散とスピンの横緩和の理論
同	若松正志	低および中間エネルギー領域の $\pi^{-4}He$ 弾性散乱に対する光学ポテンシャルの改良
天 文 学	桜井隆	フォース・フリー磁場の新しい取扱いと, その太陽活動域磁場への応用
同	江里口良治	回転ポリティローブの静力学平衡状態
地球物理学	寺沢敏夫	地球磁気圏及び惑星間空間における粒子加速現象
同	赤荻正樹	高圧下におけるマントル鉱物の相平衡とマントル遷移層の鉱物構成
同	石戸恒雄	岩石/水の系における界面動電現象と, その地球物理学への応用
同	大内徹	Mariana 地域における地震活動と実体波スペクトルに関する海底地震計による研究
化 学	青木勝敏	セレンテルルの圧力誘起半導体-金属転移
同	伊澤敏雄	カルボニル化合物及びアルコールの新しい活性化を利用する合成反応の開拓研究

専門課程	氏名	論文題目
化学	石川 清文	複素芳香族カチオンを用いるホスホナートの合成とそれらのWittig-Horner 反応
同	磯田 悟	芳香族高分子固体の分子鎖凝集状態の研究
同	稲垣 由夫	N-チオスルフィニルアニリン類の化学
同	内多 潔	フタロシアニン化合物の触媒作用 —配位と反応—
同	大川 忠	赤外分光法及び反応速度解析による不均一触媒反応の研究
同	大塚 莊一	電気陰性置換基をもつトリプチセン型化合物の配座平衡と分子内束縛回転の障壁
同	小柳 和子	気体電子線回折による分子構造の研究
同	金崎 英二	MIDP分光法を用いた芳香族アミノ類及びキノン類の低位電子状態の研究
同	佐藤 春雄	溶液および凍結溶液中における光化学反応のメスbauer分光法による研究
同	菅野 忠	有機イオンラジカル塩の磁気的および光学的性質
同	中垣 良一	励起芳香族分子の分光学的ならびに速度論的研究
同	中西 博	水素結合の電子構造および電荷移動機構の分光学的研究
同	西澤 節	コバルト-59NMR による錯体の研究
同	野上 法正	ゲーミユ安定性の構造化学的研究
同	坂東 博	金属蒸気と気体との反応生成物の赤外分光法による研究
同	牧野 友子	長半減期放射性核種 ^{92}Nb 及び ^{91}Nb の測定
同	松本 良夫	電子分光法によるPd表面上のSの状態
同	宮前 博	トリスージアミン錯体中の電子密度分布
同	渡辺 裕	含窒素ヘテロ環式芳香族化合物を用いる合成反応の開拓研究
生物化学	沖花 裕行	複合コアセルベーションの分子機構とその化学ポテンシャルについての研究
同	松本 幸次	枯草菌の生産する1本鎖DNAを特異的に分解する酵素の研究
同	河村 富士夫	枯草菌フェージDNAのcleavage mapおよびその応用に関する研究
同	瀬川 薫	ウイルストランスホーム細胞における蛋白のリン酸化
同	才野 敏郎	海洋におけるTrichodesmiumを主とした浮遊性藍藻による窒素固定とその低緯度海域の窒素サイクルに占める役割
動物学	市川 真澄	魚類の嗅覚系神経回路に関する形態学的研究
同	西塚 雅子	雌マウス視床下部神経核の形態学的研究 —特に神経内分泌機能を有する神経核について—
同	細美 義郎	ムラサキイガイにおける繊毛運動の制御機構に関する電気生理学的研究
同	野崎 真澄	視床下部と脳下垂体の機能的関連に関する研究
植物学	三室 守	ラン藻における光合成色素系IIの構成に関する研究
地質学	藤巻 宏和	日本の火山岩に含まれる希土類元素に関する岩石学的研究
鉱物学	沢田 俊幸	ピクリン酸の結晶構造とその偽対称について
同	太田 励	雲母の結晶構造とポリタイプへの水素の影響
同	草部 博達	$\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2$ 系及び共存溶液のPHについてのゼオライト及びアルカリ長石の相関係
同	西 文人	$\text{C}_3\text{A}(=3\text{cao}-\text{Al}_2\text{O}_3)$ 及び $\text{C}_3\text{S}(=3\text{cao}-\text{SiO}_2)$ の結晶化学的研究
相関理化学	蝦名 不二夫	種々の β -ジケトンを含むオルガノアンチモン(V)化合物の合成と構造。トリアルールアンチモン(V)に配位したフッ素置換 β -ジケトンの新しい反応

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
相関理化学	大谷光春	劣微分作用素に付随した非線型放物型方程式に対する非単調作用素の摂動
同	渡辺和忠	高アルギニンヒストン(H4ヒストン, H3ヒストン)の特異会合現象とその微細構造
同	有沢健治	金属リシウム軟X線端の研究
同	林進	マウスの生殖行動

理学博士学位授与者

昭和52年4月11日付授与者

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
学位規則第3条2項該当(論文博士)	鈴木尙憲	ウシ精液リボヌクレアーゼBS-1の一次構造
同	砂田利一	ある正則写像の極大族
同	宮本健	トリベンジルホスフィンを安定化配位子とするヒドリド白金(II)錯体の合成と配位子間相互作用
同	太田康彦	出生直後の性ホルモン投与によるマウス精巣の持続的变化に関する研究
同	大和田謙	ウラン化合物の赤外線吸収スペクトルに関する研究
同	山下貴司	沼生目植物の胚における根の発生と系統
同	中田育男	コンバイラにおける最適化の研究
同	土屋淳	位置天文学の新技术の測地的利用の可能性

昭和52年5月9日付授与者

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
学位規則第3条3項該当(論文博士)	土井秀之	V族半金属の電子構造の一軸性圧力依存性の研究
同	飯島道子	ピオシンRの作用機構
同	恒石幸正	地塊運動の形成機構に関する地質学的、実験的研究
同	狩野覚	二重共鳴分光法によるNH ₃ 分子の反転、回転および振動準位間の衝突緩和過程の研究
同	飴谷公兵	原子吸光分析法による磁性体および磁性半導体単結晶の組成に関する研究
同	定家義人	枯草菌の遺伝的組換え欠損変異体の研究
同	大島利雄	リーマン対称空間のある実現
同	宇川彰	質量零の場に起因するファインマン振巾の特異性の研究

昭和52年6月13日付授与者

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
学位規則第3条3項該当(論文博士)	嘉村祐輔	有機蒸着膜の電子構造
同	川合慧	ビットパターン方式によるグラフィックス

専門課程	学位申請者	論文題目
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	石田 昭彦	天然共役ポリエチン化合物の合成研究 —四塩化チタンを用いるビタミンA・B- β -カロチン及びバリチオンの合成—
相関理化学	江連 和久	三要素よりなる神経回路網におけるリズム発生とその条件
同	岡部 豊	準一次元導体における電荷密度波の不純物ピン止めと、位相结合の融解
動物学	小室 正人	放射線照射により誘起されるマウス卵巣腫瘍に関する研究

昭和53年7月11日付授与者

	学位申請者	論文題目
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	堀口 浩幸	水銀光増感反応の初期過程の研究
同	松本 和子	ポリモリブドヒ酸有機誘導体の結晶構造
同	菊地 一雄	高分子電解質溶液の電気光学的研究
同	中島 宏	<i>Bacillus stearothermophilus</i> の酢酸キナーゼの精製とその機能に関する研究
同	吉田 正章	離散的なモノドロミー群を持つ Fuchs 型方程式の局所理論
同	竹下 彬	コンパクトなリーマン多様体上の定常ナビエーストークス方程式の解の存在
同	薬師 久弥	ベンジジンおよびN, N, N', N'-テトラメチルベンジジンを電子供与体とした電荷移動錯体の結晶構造
同	平井 直樹	外眼筋運動細胞に対する小脳室頂核からの影響

昭和52年9月26日付授与者

専門課程	学位申請者	論文題目
植物学	鈴木 孝仁	サルモネラ菌ベシ毛基部形成と fla 遺伝子群の機能に関する研究
同	鴨脚 建夫	ファージXの宿主域に関する遺伝的研究
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	矢野 敬幸	衝撃波管による高温均一気相反応の研究
同	石井 菊次郎	分子錯体および他の有機固体の誘電的性質
同	植田 憲一	パルス加熱フレームレス原子化装置の開発と原子化過程の解析に関する研究
同	高田 健夫	原子吸光分析法における原子化機構と内部標準法に関する研究
同	曾我 文宣	カドミウム 110 及び 112 に対する陽子散乱によるアイソパリックアナログ反応の研究
物理学	平木 哲	Au(Cr), Au(Mn), Au(Fe) 合金の磁性の ^{54}Mn 核偏極による研究
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	小川 原嘉明	白鳥座のX線源 Cyg X-1 の観測
同	加古 孝	同一視作用素を伴う散乱問題の研究
生物化学	宮崎 龍雄	光合成細菌中におけるバクテリオクロフィル a の存在状態の研究
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	陳 栄作	核磁気共鳴によるヒノキチオール研究

専門課程	学位申請者	論文題目
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	前田 尚 利	気体中でのガウスビームの伝播について
同	守屋以智雄	日本の第四紀火山の地形発達史
地 理 学	大 森 博 雄	日本島山地の起伏構造と地形発達上の位置

昭和52年10月17日付授与者

専門課程	学位申請者	論文題目
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	山 形 俊 男	ベータ面上の地球流体の運動
同	加 瀬 克 雄	日立および別子鉱床の比較研究
天 文 学	藤 本 真 克	かにパルサーからの重力波

昭和52年11月14日付授与者

専門課程	学位申請者	論文題目
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	渡 辺 恒 夫	磁性半導体の単結晶育成と電気的性質の研究
生 物 化 学	中 村 俊	大腸菌ポリペプチド鎖延長因子 Tu の一次構造に関する研究—トリプシンによる、限定分解鎖の配列、SH 基近傍のアミノ酸配列について

昭和52年12月12日付授与者

専門課程	学位申請者	論文題目
物 理 学	三 間 光 太 郎	超関数の理論に基いた場の量子論に於ける正則化の一研究
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	福 来 正 孝	重粒子に対する交換縮退の交叉不変な解
同	藤 原 英 徳	Exponential group の正則誘導表現について
同	渡 辺 隼 郎	線形常微分方程式を解く数式処理
同	片 山 武 司	電子シンクロトロンにおける高周波加速と電子捕獲効率に対する電子流負荷の影響

昭和53年1月23日付授与者

専門課程	学位申請者	論文題目
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	伏 見 謙	擬似雑音解析の生物物理学への応用
同	溝 口 森 二	低温相マグネタイトの核磁気共鳴による研究 —イオン配置の推定
物 理 学	板 野 肯 三	仮想テープを持つ計算機の試作とその評価
学位規則第3条3項該当 (論文博士)	川 田 薫	高温高圧下における $Mg_2SiO_4 - Fe_2SiO_4$ 系と地球内部
同	松 田 准 一	海洋地域からの岩石の Sr 同位体比研究
同	田 中 済	気球による晩期型星の近赤外多色測光

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
地球物理学	唐戸俊一郎	マントル構成物質のレオロジー
学位規則第3条3項該当(論文博士)	松本武彦	ニオブ金属中の固溶水素と置換型溶質原子との相互作用
同	豊原富士夫	中国地方西部における秩父地向斜北西部の前期中生代の前期構造地質史
動物学	佐原雄二	生長, 食性, 摂餌活動を中心とするヨシノボリの生態学的研究
地球物理学	渋谷和雄	余震域を通過する地震波の減衰について(1974年伊豆半島沖地震の場合)

昭和53年2月13日付授与者

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
学位規則第3条3項該当(論文博士)	入江伸吉	孵化前後における鶏組織のキサンチン脱水素酵素に関する研究
同	倉本義夫	強磁場下多電子系の理論
同	長沢工	しし座流星群の流星スペクトルの解析
同	宮本正道	エコンドライト隕石の冷却過程及び鉱物学的研究
同	谷島賢二	数学的散乱理論における定常法的研究
同	為安司	ムラサキガイの前足糸牽引筋の収縮-弛緩についての研究
同	山本啓一	ミオシン軽鎖の螢光法による研究
生物化学	田中重明	ラット肝ミトコンドリアDNA依存DNAポリメラーゼの精製とその性質

昭和53年3月13日付授与者

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
学位規則第3条3項該当(論文博士)	藤井陽一郎	日本の地震の実例から求めた地震性地殻変動の各相と特性
同	横田忠夫	たばこ栽培を指標としてみたわが国農業の地域的性格
同	中田好一	熱重力カタストロフィーについて
同	片桐千仞	ワモンゴキブリの糖加水分解酵素
同	田中桂一	マイクロ波および赤外線分光法によるいくつかの気体分子の振動回転エネルギー準位の研究
同	村田一郎	可搬型重力絶対測定装置
同	森谷常生	ウニ精子のアリルスルファターゼ
同	北出武夫	3次元ベナール対流の数値的研究
同	斉藤晃司	ステイゾロビニン酸およびステイゾロビン酸の生合成
同	関口雅行	中性子ピック・アップ反応により励起されたSn 同位核の内殻軌道 $1g_{9/2}$ およびNd, Sm 同位核の内殻軌道 $1h_{11/2}$
同	渡辺正勝	クリプトモナスにおける光走性の生理学的研究
同	阿部修治	本邦産天然炭酸カルシウム中のマンガン(II)の状態分析
同	山崎正	2次のジューゲル保型形式について
数 学	石川洋文	重さ2のヒルベルトモジュラー型尖点形式の空間に作用するヘッケ作用素の跡について
物 理 学	武田玲子	ヘリウムの量子格子モデル

専門課程	学位申請者	論 文 題 目
物 理 学	武 田 広	第3共鳴付近での中性子からの負パイ中間子光発生に於ける反跳陽子偏極度測定
天 文 学	小 林 美知彦	早期型星外層の物質混合一剪断流不安定性
同	吉 岡 一 男	RV Tauri 型変光星 AC Herculis の成長曲線法解析
同	近 田 義 広	電波天文観測のソフトウェア・システム
地球物理学	中 村 健 治	ラグランジュ的に見た波と流れの相互作用
同	中 村 一	大気大循環に及ぼす山岳の力学効果
化 学	吉 田 邦 夫	荷電粒子トラックの化学的エッチング
生物化学	溝 部 文 夫	ラットの松果体に対するエストラジオールの作用
植 物 学	鷲 谷 いづみ	タバコ培養細胞のアミノ酸合成におけるプロプラスチドの役割
相関理化学	安 部 真 一	細胞培養による、イモリ虹彩色素上皮細胞の分化形質の転換機構の研究
同	永 井 啓 一	TEACO ₂ レーザー誘起化学反応

外国人留学生・研究員と 本学部教職員との懇談会

標記の懇談会が、外国人学生委員渡辺直経教授の招待で、2月24日(金)午後4時30分頃から山上会議所で開催された。

この会は学部長、評議員、協議員ならびに関係学科、専門課程の教官がホスト側となり、事務部からも多数が参加した。

懇談会は渡辺委員、学部長の挨拶に引続き、学部長が乾杯の音頭をとり、終始たのしいふん囲気のもとに歓談が行われ、午後7時頃次回を約して散会した。

編 集 後 記

理学部に所属する機関の写真による紹介を表紙ですることにしました。写真提供のお願いを順にいたす予定ですので、よろしく願ひいたします。

(S)

編集：

平 川 浩 正(物理)	内線	3314
飯 高 茂(数学)	内線	3205
小 平 桂 一(天文)	内線	4341
田 隅 三 生(化学)	内線	3148
鈴 木 秀 夫(地理)	内線	3288 2619